

議会だより

9月定例会 No.37

平成26年10月30日

発行 石川県志賀町議会

ししか

	ページ
陸上競技場トイレを整備	2
平成25年度各会計 決算を審査	4
2号機審査は待ったなしで (一般質問)	8
定住対策特別委員会が始動	14
グループ紹介 富来ロータリークラブ	16



未来に向かってよーいどん (土田保育園うんどうかい)

平成26年度一般会計補正予算

陸上競技場トイレを整備



完成によって取り壊される予定の現在のトイレ棟



新しいトイレのイメージ（場所は現トイレより海側）

9月定例会は、9月2日から19日までの18日間の会期で開かれ、町長から提出された平成26年度各会計の補正予算、条例の改廃、工事請負契約、町道路線の変更・廃止、25年度各会計の決算認定、人事案件など39件を審議し、それぞれ全会一致で原案のとおり可決・認定・同意し、閉会しました。

平成26年度一般会計補正予算は、歳入では、25年度決算剰余金の繰越金計上や普通交付税の交付決定にともなう増額のほか、国の経済対策にかかる交付金や災害復旧費補助金などの国庫支出金の増額など、歳出では、職員の定期異動にともなう職員給与費の補正、道整備交付金の増額配分による橋梁長寿命化事業や町道の舗装補修事業費を追加、さらには、防火水槽新設事業費や領家漁港保全計画策定事業費を増額し、新たに陸上競技場トイレ整備事業、図書館システム更新事業を計上するほか、8月の豪雨による農林土木災害復旧費

26年度一般会計
3億7736万円
を増額



コミュニティ棟を農家レストランに

（株）スギヨファームに指定管理している「とぎ実験農場」の施設を農家レストランとして改装を行うにあたり、国の補助事業の条件として、これまで平成31年3月まで指定管理期間を定めていたものを11年延長し、平成42年3月までとします。

**指定管理の
期間を延長**

の追加などにより、歳入歳出ともに3億7736万円を増額し、予算総額は139億712万円となりました。

教育委員に守田氏を同意



任期満了にともない、教育委員会
の委員に、志賀町
町の守田廣三氏が
任命（再任）され、
同意されました。

固定資産評価審査委員に 3氏を同意

土地や家屋等の固定資産の価格
に対して不服申し立てがなされた
場合に審査する機関の委員に、次
の3氏が選任（再任）され、同意
されました。

細川富士雄氏（福野）
田中富士雄氏（高浜町）
金谷 昭一氏（富来地頭町）

処理場の 機能を強化

上野浄化センター施設
の経年劣化にともない、
機械電気設備等の改修を
行うため、金沢市のアム
ズ（株）と6739万円で請
負契約を締結し、改修工
事を行います。

町道路線の 変更・廃止

相神地区の県営ほ場整
備事業の区域内にある町
道9路線を取り込んで区
画の整備を行うため、町
道の一部または全部を廃
止します。



改修が進む上野浄化センター

平成26年度各会計補正後の総額

会 計 名		予 算 額
一 般 会 計		1 3 9 億 7 1 2 万円
国民健康保険		2 8 億 6 7 9 9 万円
後期高齢者医療		3 億 2 8 4 7 万円
農業集落排水事業		5 億 3 2 0 0 万円
公共下水道事業		1 0 億 2 5 2 8 万円
介護保険		2 7 億 7 8 7 7 万円
診療所事業		1 億 6 5 0 2 万円
水道事業	収益的収入	7 億 3 6 1 6 万円
	収益的支出	6 億 5 5 3 9 万円
	資本的収入	1 億 3 0 8 9 万円
	資本的支出	5 億 6 1 5 3 万円

※万円未満は四捨五入

ケーブルテレビ施設設置 の負担明確化を図る

ケーブルテレビ施設の機器類設置負担金につ
いて、事業所で一定の施工範囲を超える場合や
設備機器の監視のための無人施設の区分を新し
く規定し、その施設の工事費を全額実費負担に
するなど、加入者負担を明確化しました。

詳しくは、情報推進課 ☎32-9261 まで



事業所の機器類設置等の負担を明確化

志っ祝いCHECK

審査

委員長	稲岡健太郎	委員	須磨隆正
副委員長	福田晃悦		林一夫
委員	南正紀		久木拓栄
	寺井強		
	堂下健一		
	南政夫		

平成25年度の一般会計ほか11会計の決算を認定するため、9月9日決算特別委員会が設置され、16日と17日の両日にわたり委員会を開催し審査を行いました。質疑応答の主な内容を報告します。

一般会計

商工会への補助に不公平ないか

質疑 商工会への補助金は、会員数で見ると志賀町商工会が488会員で補助金が847万円、富来商工会が296会員で660万円となっており、会員数で見ると不公平があるように見えるが。

答弁 補助金交付要綱で、志賀町商工会は1170万円を、富来商工会は660万円を限度額として補助しており、志賀町商工会では当初、臨時職員2名を予定していたが、それがなくなったため事業費が減額となった。

特産品のネット販売効果あるか

質疑 特産品をインターネットで販売するため、補助金63万円を交付したが、事業内容を聞きたい。また、効果はどうか。

答弁 補助金はインターネットプロバイター利用料金に充てたものである。品物の売り上げは3万円ほどであった。



(参考) 志賀町観光協会のホームページ

やっちゃん祭りに工夫しているか

質疑 西能登やっちゃん祭りに900万円かけたが、運営面で創意工夫しているのか。

答弁 平成5年頃から高額な歌手をメインに実施してきたが、資金面で厳しく、今後はこういったものに頼らないイベントで交流人口の拡大を目指したいと考えている。

コミュニティバスの改善を

質疑 コミュニティバスの収益率を上げる改善策はないか。

答弁 バスは収益を得るために運行しているのではなく、交通弱者対策で行っている。ルートや利用状況をみて昨年改善した。

オンデマンド方式(利用者の求めや予約による

運行方法)を検討したが、そちらの方が経費がかかる結果であった。

自殺防止事業で何をしているか

質疑 自殺防止事業ではどのような取り組みを行っているのか。

答弁 自殺防止に効果があるのは、保健センターで実施している電話相談事業と高齢者交流サロンであり、これらを中心に行っている。



電話相談は重要な自殺防止事業

平成25年度 各会計の 決算を

特別・企業会計

ケーブルテレビ事業の返済状況

質疑 ケーブルテレビ事業の起債償還（借入金返済）状況はどうか。

答弁 起債（借入金）は、合併特例債で、償還（返済）は平成35年までであり、25年度末残高は23億円弱である。

看護師確保の見通しは

質疑 富来病院の看護師確保について、将来的な見通しを示せ。

答弁 看護師と薬剤師の確保には大変苦慮しており、いろんな場所での声かけはもちろん、ハローワークにも求人募集を出している。看護師は45名不足している。

看護師には修学資金制度があり、現在3名が利用している。順当に免許取得すれば、2〜3年後に雇用できる見込みである。

下水道整備状況と接続率は

質疑 公共下水道の管路工事はいつまで続くのか。また、現在の接続率はどうか。

答弁 下水道の管路工事は平成28年度までで、道路の舗装が29年度に終る計画である。接続率は、26年3月31日現在で、中央処理区（志賀地域）が54・5%、富来処理区が46・3%、西海処理区が93・0%、福浦処理区が88・2%である。

平成25年度各会計の決算状況

会計別		歳入	歳出	差引残額
一般会計		142億 6204万円	138億9818万円	3億6386万円
特別会計	国民健康保険	28億1568万円	28億 681万円	887万円
	後期高齢者医療	3億1323万円	3億1277万円	46万円
	農業集落排水事業	4億9879万円	4億9879万円	0万円
	公共下水道事業	10億4943万円	10億4943万円	0万円
	地域し尿処理整備事業	1億 442万円	1億 442万円	0万円
	簡易水道事業	1656万円	1656万円	0万円
	介護保険	24億9550万円	24億9132万円	418万円
	診療所事業	1億6511万円	1億6262万円	249万円
	ケーブルテレビ事業	4億8636万円	4億8636万円	0万円
水道事業会計	収益的収支(税抜)	5億 7894万円	5億1245万円	6649万円
	資本的収支(税込)	1億3029万円	3億8294万円	△2億5265万円
病院事業会計	収益的収支(税抜)	11億4287万円	12億4739万円	△1億 452万円
	資本的収支(税込)	1億2878万円	1億5239万円	△2361万円

※ 1万円未満四捨五入

総務常任委員会

委員長	久木 拓	米 強
副委員長	寺井 隆	正 敏
委員	須磨 越	後 俊
"	櫻井 戸	坂 忠
"		寸 計

税の還付

なぜ今頃か

質疑 税の還付金2000万円の補正予算は、どういうものなのか。

普通なら確定申告の時期に還付が発生するものと考えますが、なぜ今頃なのか。

答弁 この還付は、所得の修正を税務署に申し出たため発生したもので、還付は通常、確定申告の時期は一般の申告を優先的に取り扱い、その後所得の修正を取り扱うため、時期が遅くなるのである。

質疑 役場本庁と支所で公用車を2台購入するが、学校には公用車が全くないところがあり、事務連絡を個人車の借り上げで行っているのに、まだ使える公用車を配置することはできないだろうか。

答弁 学校に公用車を配置するよりも個人車を借り上げの方が経費的に安価である。今後もそういった対応を考えているが、一度、検証してみる。



教育民生常任委員会

委員長	田中 正文
副委員長	南 正紀
委員	稲岡健太郎
"	堂下 健一
"	下池外巳造

テニスコートの階段勾配は安全か



安全な階段に改修します

質疑 補正予算に計上された町民テニスコートの階段改修工事は、一般的な階段の勾配に比べて安全とは思えないが、どう考えるのか。

答弁 階段勾配の基準を調べたところ、屋外の具体的基準はなかった。

現地での駐車場の位置関係などがあるため、上端をずらして緩やかにし、一段当たりの高さを低く、奥行きを広く、段数を3

げて両側に手すりを新設して緩やかな仕上げとする計画である。

質疑 防火水槽の整備は、あくまでも地元からの要望によるものなのか。町で各地区の防火水槽のあり方を調べたものはあるのか。

答弁 消防とともに、地区ごとの消火設備の充足率を調べたものがあり、これを活用しながら進めて協議することになる。

委員	長	林	一夫
副委員	長	福田	晃悦
委員		南	政夫
		富澤	軒康
		山本	辰榮

詐欺行為への 対応周知図れ

質疑 消費者行政事業についてだが、詐欺行為が頻繁にあると思う。町民にしてみれば、どう対応すればいいのかからないう方がいると思うので、周知について検討してほしい。

答弁 現在、石川県内19市町のうち、消費者相談員がいないのは本町を含む2町であり、今回、県の消費者行政活性化事業により相談員を配置するものである。

悪徳業者のおそれがある場合は、羽咋警察署から商工観光課に連絡がくることになっており、その情報は、防災行政放送やケーブルテレビですぐに伝達できることになっている。

町民の方が気軽に商工観光課へ連絡できる体制を検討していきたい。



通行止めが続く羽咋市滝谷町の土砂崩れ

質疑 羽咋市の土砂災害で1人亡くなってから、危険箇所を改修するのに自治体の方でいくらか助成する制度が、羽咋市以外に5、6の自治体があるらしいが、志賀町の現状と今後の対応を教えてください。

答弁 いろいろと検討している最中であり、どの方法が一番良いのか、災害が起こる前に危険箇所を修繕していく場合がよいのかどうか検討中であり、できるだけ早く決定して何らかの対策を取りたいと思っている。

定住対策特別委員会を設置

第1回臨時会

7月22日、第1回臨時会を開催し、町長から工事請負契約と消防ポンプ車購入にかかる議案が提出され、それぞれ原案のとおり全会一致で可決されました。

工事議案については、志賀地域の統合小学校校舎棟新築工事を真柄建設(株)と23億5440万円で購入を締結し、消防ポンプ車については、西浦分団のポンプ車を長野ポンプ(株)から1420万円で購入します。

また、議会からは、下池議会運営委員会委員長が「定住対策特別委員会設置の決議案」を下欄の趣旨により提出し、全会一致で可決されました。委員は次のとおりです。

定住対策特別委員会	委員長	戸坂忠寸計
副委員長	南	正紀
委員	福田	晃悦
	稲岡健太郎	
	寺井	強
	南	政夫

【委員会の設置主旨】

日本創成会議がこのほど発表した本町の将来推計人口は、2040年に1万2千〜1万3千人程度と試算され、町の人口が半減するという非常に憂慮される事態であります。また、現実的には、合併から9年間で3千人以上減少しています。

全国知事会の少子化非常事態宣言の採択を受け、国も本腰を入れるようですが、国施策に併せて町独自の施策も展開していくことにより、一層の効果が期待できるのではないかと考えます。

これらのことから、定住対策は町全体で考えていかなければならない喫緊の課題であり、我々、議会としましては、議決機関としての一傍観者でいられるはずもなく、町政の片輪を担う機関として、このたび6人からなる、定住対策特別委員会を設置し、能動的に提言をまとめたいとするものであります。



福田 晃悦 議員

福田 原子力規制委員会は8月26日、志賀原発2号機の安全審査の初会合を開き、申請書類のページ数が、先行の川内原

2号機審査は待ったなしで

すみやかに安全確認願う 町長

発に比べて少ないことや、フィルター付きベント装置を申請に盛り込まなかったことについて疑問視する声があった。

事業者には説明責任を厳格に果たし、規制委には、志賀原発固有の課題を厳密かつ吟味し、「待ったなし」で審査を進めていくべきと考えるが。

町長 北陸電力は、審査会合等での規制委員会の指示に従い、適切に対応するとともに、今後とも、安全確保を最優先に考え、迅速な審査の推進に努めるべきである。

なお、町としては、規制委員会には、敷地内破砕帯の問題について科学的根拠に基づく厳格な評価を行うとともに、遅滞なく新規制基準への適合性審査を進め、速やかに安全性を確認していただきたいと考えている。

病児保育を進めよ

大変難しいと考える 町長

福田 政府が成長戦略の中心に位置づける「女性の活躍」だが、働く女性にとって仕事と育児の両立の壁となるのが、子供の急な病気や発熱である。仕事等やむを得ない事情がある際に、病気の子供を預けることのできる「病児保育」のニーズが近年高まっており、自治体やNPOで少しずつ各地に広がりつつあるが、本町でも進めるべき。



ニーズが高まる病児保育

町長 実施は、病児の容体が急変した際に、直ちに医師の受診が必要となることや病児室などの施設整備、早朝からの長時間対応にともなう人材確保、病気の流行状況や季節による利用変動などの理由から大変難しい。

しかし、育児を支援するファミリー・サポートセンター事業を実施しており、急用時に児童の預かりもできる。また、地元企業に対し、病気の時こそ親が寄り添い、看病ができるよう、子育て支援に十分な配慮への啓発に努めていく。

その他の質問

福田 志賀町の魅力をさらに県内・町内に浸透を図るための情報発信の具体的な施策を問う。

町長 外国人には、観光協会のホームページで英語の紹介も行う。また、首都圏には多くの外国人が訪れており、その方々を含めた観光客を呼び込むために、東京都内でのイベントの出演なども計画している。

そのほか、観光協会のホームページを刷新し、フェイスブックなどを活用して情報発信を行うとともに、町のゆるキャラ西能登あかりちゃんを各種イベントに出演させ、観光PRを行う。



南 正紀 議員

町長 人口減少、少子高齢化の状況で、富来地域は深刻な状況であり、懸念している。
有効な施策は、一朝一夕に成し得るものでないが、今後とも、それぞれの地域の特性を活かし、若者に魅力あるまちづくり



さみしくなった富来地頭町の商店街

富来地域のまちづくりは

若者に魅力あるまちに 町長

南 富来地域の衰退は深刻である。将来の展望はどのように開けるのか。今後の富来地域のまちづくりを問う。

また、年間出生数20数人という現実、平成30年代には富来中学校の生徒数が現在の150人から70人程度、富来小学校では210人から140人程度に激減することになる。幅広い視野で教育環境を維持する計画を策定する時期に達していると考えるが。

り、安心して暮らしているまちづくりを最優先に考えていきたい。

教育長 教育環境については、小・中一貫教育の可能性・方向性だが、9年間にわたり児童・生徒を把握することで、個性の伸長や優れた才能の発見にもつながる。富来地域に限定せず、町全体の方向性として模索していく必要があると考える。

町民との対話に工夫を

これからも同様に行う 町長

南 町長は就任以来、町長談話室を継続的に開設し続けているが、曜日、時間帯、場所を限定していることで、利用者が限定されないか。適宜、各地区公民館で開催し、時間帯も変えるなど、より町民に近く、幅広く接するなどの工夫はしないか。
また、昨年、今年とタウンミーティングの対象を各区分とし、要望・意見を求めたが、その立場上、地区内の事業を要望する案件ばかりが目立ち、町民の行政に対する生の声が聴かれなかった感がある。今回のタウンミーティングの総括を問う。

町長 町長談話室は、平成22年から公務に支障がない限り、毎週水曜日に開催している。これまで85回開催し、延べ255組の町民の生の意見を聞いた。町民には定着したもので、これからも同様の日時・場所、公務の間をぬって実施をしていきたい。

また、タウンミーティングは、実績を検証しながら、より良い開催方法を検討していきたいと考えている。



出席者と膝を交えるタウンミーティング



堂下 健一 議員

次期介護計画の方針は

安心して在宅介護が
できるよう取り組む 町長

堂下 国会で医療・介護一括法（地域医療・介護総合推進法）が成立したが、負担増とサービスの地域格差が大きくなるのではないかと。これを把握しているか。また、2025年問題（団塊世代の後期高齢化）は避けて通ることはできず、次期の介護保険事業計画の方針を聞きたい。



現在の介護保険事業計画

町長 これは、持続可能な社会保障制度の再構築の一環であり、利用者との介護給付費の増加が避けられず、やむを得ないものと考えている。また、対応の格差については、地域に即した施策で志賀町としての独自性が図られるものと考えている。第6期介護保険事業計画で課題を明確化し、課題解決に向けた対応策を検討し、2025年までのサービスの給付・保険料の水準も推計するとともに、安心して在宅介護ができるよう取り組んでいく。



初の捕獲となった3頭のイノシシ

イノシシ被害の状況は

おりに
檻わなに力を入れて取り組む 町長

堂下 イノシシ被害面積と被害額はどれほどか。また、対策は、国や県の助成待ちでは素早い対応ができないため、町も独自予算の計上を図り、地元との協力で被害の拡大防止に努めるべき。

町長 昨年の被害は、9集落で被害面積は80a、被害額は約93万円であったが、今年度は現在のところ、荒屋、直海、八幡など19集落で被害面積は104a、被害額は105万円である。

イノシシ対策は、これまでも檻わなでの捕獲に力を入れている。檻わなが第一と考えており、捕獲実績をみて、不足する場合には、予算措置をしていきたい。

その他の質問

堂下 原発再稼働の最終責任は誰が取るのかはつきりしない中で、立地自治体の理解が大きな位置を占めていくやり方をどう考えるか。

町長 原発の安全性は国が責任を持っていると認識している。原子力政策は国策であり、再稼働の責任は国にもあると考えている。



稲岡健太郎 議員

避難時の集合場所は妥当か

従前からの指定場所である 町長

稲岡 ①「地区防災計画

制度」が創設・施行されたが、各校区での計画策定の現状はどうか。

②東日本大震災で、安否確認・避難支援に駆け回った多くの消防・民生委員関係者等が犠牲になったことを教訓として、本

町の取り組みはどうか。

③原子力災害避難所マップは、どの程度周知されていると考えるか。マップ記載の集合場所は妥当かどうか、住民の反応、意見を検証する必要があるのではないか。

町長 ①現在、計画を策

定した組織はないが、自主防災組織を設立予定の組織にひな形を渡しており、そこで計画を策定中である。既存の自主防災組織にも作成を順次説明している。

②消防団員の安全確保のため、消防団活動・安全管理マニュアルを作成している。緊急時に適正な

災害情報を伝え、迅速に広報することで、消防団等関係団体の活動時の安全確保にもつながると考える。

③原子力災害避難所マップは、全戸に配布した。

既に皆さんに目を通して頂いていると思っており、タウンミーティングでも内容を説明した。今後、希望する地区、団体等への説明会の開催や各種会合等で広く周知を図っていく。

なお、避難時の集合場所は改めて指定したものでなく、従前から周知されている場所である。

空き家取り壊しの費用助成は 国の動向を踏まえ検討 町長

稲岡 国内の空き家率が、過去最高の13・5%

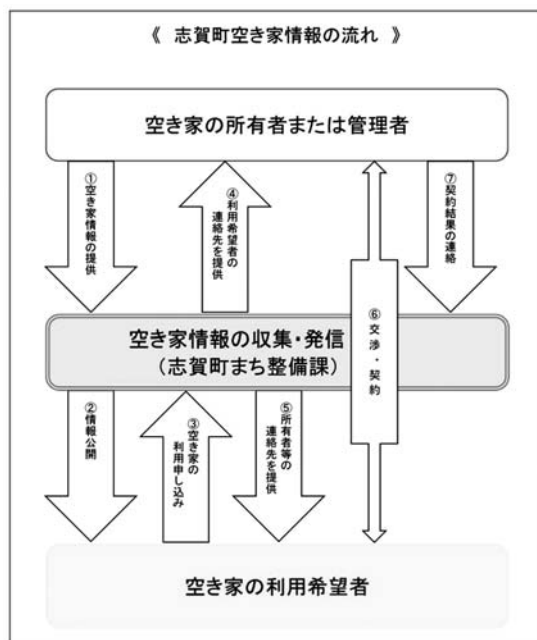
になった。本町の空き家率と空き家情報の実績はどうなのか。

空き家取り壊し費用の助成や減免措置等の優遇策を空き家の活用策と併せて進めていくべきだ。

町長 本町の空き家率は把握していないが、東日本大震災時に町内全域で実施した調査では、すぐに入居し生活できる空き家が178件であった。

空き家情報は、家主の了解を得た物件は、ホームページで情報提供し、移住・定住化を進めている。これまでに5件の賃貸契約、1件の売買実績があった。引き続き、空き家物件の情報を公開していきたい。

空き家取り壊し費用の助成は、現在、国で空き家対策に関する特別措置



法案が検討されているようであり、この動向を踏

まえて検討していきたい。また、税の優遇措置についても、国の動向を見極めて適切に対応したい。

その他の質問

稲岡 ニュータウン造成

にあたって、造成前に購入希望者を募り、意見を聞く場を設けてはどうか。

町長 そのような考えはない。

国規制委第2回評価会合の状況を報告

原子力発電所対策特別委員会



北陸電力(株)金井原子力本部長の説明

7月28日、原子力発電所対策特別委員会を開催し、11日に原子力規制委員会で行われた、志賀原子力発電所敷地内破砕帯の調査に関する有識者会合第2回評価会合での報告について、北陸電力から説明を求めました。

北陸電力(株)の金井原子力本部長は、今回の評価会合は、第1回会合の指摘による追加調査の結果を説明したものとし、今後は、補足するデータがあれば提出するなど、できるだけ丁寧な説明に努め、安全性の向上対策に取り組んでいきたいと述べ、同社前川土木部長からは、「敷地内破砕帯は、12〜13万年前以降の活動はない。」など、指摘事項に対する当社の調査結果についての説明がありました。

「フィルター付きベント なぜ盛り込まない？」

2号機の安全審査申請を説明

全員協議会

8月26日、議会全員協議会を開催し、志賀原子力発電所2号機が、国が新たに定めた新規基準に適合しているかを確認するための審査申請を、北陸電力が原子力規制委員会に提出したことから、議会に対し説明がありました。

その理由は、格納容器スプレーと格納容器ベントで対応できるためである。この装置は、あくまでもバックアップとして自主的に設置するものである。申請書に記載はないが、審査の際にしっかりと説明する。

【主な質疑応答】

【質疑】 なぜ、フィルター付ベントを申請に盛り込まなかったのか。

【金井原子力本部長】
敷地内破砕帯は、まだ国の方向性が示されていないが、安全性向上対策も並行して住民に説明し、安心してもらうことは重要である。そういった経緯から、安全協議の開始と2号機設置申請をお願いすることになった。

【高橋原子力部長】

電源の強化などいろんな工夫をすることで、この装置が無くても問題はなく、各社のものより優れていると思っている。

これまでの経緯として、福島原発事故を受けて基準の強化が図られ新規規制では安全強化策、安全性向上策を行ってきた。格納容器フィルター付ベント（圧力逃し弁）装置は、今回の申請には記載していない。

しかし、住民の不安を解消するためにも、格納容器フィルター付ベント装置を付ける方向で考えている。当社では適切な判断だと思っており、しっかりと説明していきたい。

指定管理のメリットは？

羽咋郡町議会議長会 議員視察研修



㈱セオリー原社長の説明

羽咋郡町議会議長会の議員視察研修が、7月15日に志賀町を会場に開催され、2町の議員が志賀町で導入されている観光施設等の指定管理について、そのメリットを学びました。

施設見学は、東京で居酒屋を広く手掛ける㈱セオリーが指定管理する「シーサイドヴィラ渤海・道の駅とき海街道」と㈱スギヨファームが指定管理する「とき実験農場」で実施しました。

説明には、セオリー社長の原誠志氏が東京から駆けつけ、会社の経営理念と指定管理のあり方について、その思いを語っていただきました。

～今後の政治展望は～

石川県町村議会議長会 議員・監査委員合同研修会



時局講演で政局の流れをつかむ

8月6日、津幡町生涯学習センター・シグナスにおいて、石川県町村議会議長会の議員・監査委員合同研修会が開催され、本町からは議員と監査委員が出席しました。

講演会には、政治アナリストの伊藤惇夫氏を講師に迎え、「今後の政治課題と政局・政治展望」と題し、第2次安倍政権の組閣予想や国政に影響を与える地方選挙の情勢など、今後の政局動向にまつわる興味深い講演に、参加者は関心を寄せ聞き入りました。

ファシリテーションのすすめ

能登地区町議会連絡会 議員研修会



本川氷見市長の講演

能登5町の議会で組織する、能登地区町議会連絡会の議員研修会が、8月21日、穴水町のとふれあい文化センターで開催されました。

講師には、お隣の氷見市長である本川祐治郎氏が公務多忙の中を駆けつけていただき、氏が市長になる前から手掛けていた「協働コーディネイト・ファシリテーション」のノウハウとまちづくりへの応用について教示していただきました。

ファシリテーションとは、組織や会議運営の技術のことであり、まさにリーダーに求められる手法であると認識しました。

定住対策先進議会に学ぶ

議会運営委員会視察

町長も同席され、定住対策に対する熱心な取り組みを説明していただき、その後、質疑応答をさせていただきますました。

質疑 特別委員会の設置経緯は。

答弁 将来の人口予測が県全体の平均値より10ポイント下回るため、このままでは地域の存立問題となり、町を挙げて取り組むことにしました。議会は、町長の要請を受け、定住対策特別委員会を設置しました。

質疑 特別委員会の委員構成は。

答弁 委員数は6人で、定住対策事業が各常任委員会と関連があるため、3つの常任委員会から2人ずつ選出しました。

質疑 特別委員会の運営は。

答弁 委員会は年5〜6回で、「みやき町定住対策促進事業」を審議しています。

質疑 特別委員会の今後は。

答弁 定住対策を最重要課題と位置づけ、議会は執行機関と独立・対等の立場の議決機関として、定住対策事業の監視・評価を行っていきます。



末安町長から定住施策の説明を受ける

【調査を終えて】

議会には町政の執行権は付与されていませんが、単に議決機関だけの一傍観者としてでは済まされない気がします。

国とともに、地方がこの問題に取り組んでいかなければならないことを委員全員が確信し、特別委員会の設置に向けて決した調査でした。

定住対策特別委員会が始動

7月22日、定住対策特別委員会が設置され、委員長に戸坂忠寸計議員、副委員長に南正紀議員を互選し、委員会が始動しました。

まず、8月11日に、町

総合計画における将来人口推計の検証と国勢調査人口の分析を行いました。

総合計画の人口推計値では、平成26年現在値ですでに「28年の推計人口2万1千人」の達成域にあり、減少スピードが、当初想定より早まっています。

年代ごとの階層別人口では、60歳から64歳の、いわゆる団塊の世代の人口が本町においても最も多く、逆に、20歳から24歳の青年層が最も少なく、特に、青年層の流出は子育て世代の減少にもつながり、少子化に拍車をかける要因になっているものと考えられます。

一方、22日に開催した委員会での住民基本台帳人口の分析では、平成17年9月の合併時から26年4月までの8年7か月で、総人口は3千人以上減少しています。

その要因として、出生数が平成21年を境に少子化が顕著化し、死亡も21年を境に増加傾向にあります。近年の出生状況は、志賀地域は横ばいがありますが、富来地域は半減状態です。

また、転出が多い反面、転入が少なく、その差引きは、概ね150人強のマイナス値で推移しています。

人口ピラミッドで階層別人口を見ますと、団塊の世代が最も多く、それを支える若年層が先細りとなっており、日本全体の人口ピラミッドと比較してみますと、第2次ベビーブームの40歳

前後の世代が、全国的に2番目に多い世代であるのに対し、本町においては、その世代が少ないことが特徴点です。

今回の調査は、人口減少の特徴点や世代別の人口推移などを知ることができましたが、今後は就業や雇用状況、子育て・住宅・教育環境などの調査を行い、評価と分析を行いながら、その核心部分を究明したいと考えております。



第1回目の委員会から活発に議論

全国レベルの議会広報を調査

議会広報特別委員会で、8月7日に、全国町村議会広報コンクールで優秀な成績を収める宮城県で、特に優秀な利府町、美里町、大和町、川崎町の4議会を訪問し、先進事例調査を行いました。



①りふ議会だより
「りふ町議会だより」は、全国町村議会広報コンクールで、平成22年度に全体の2位となる「特別優秀賞」に輝いた全国屈指の議会広報です。

この広報誌には、利府町が楽天イーグルス2軍の本拠地であることから、チームカラーである「クリムゾンレッド」という色を表紙に配し、議会だよりが認識されるように差別化を図っています。

誌面の完成度は高く、見出しや写真レイアウトは完璧で、特に、一般質問の記事での余白の使い方がうまく、読者の関心を引く技術には目を見張るものがあります。

②みさとまち議会だより
「みさとまち議会だより」は、全国コンクール「奨励賞」の常連で、構成やレイアウトがうまく、一定の形ができ上がっているように見えます。しっかりとした編集方針に基づいて誌面が構成され、議会広報の権威が見取れる広報です。

③たいわ町議会だより
「たいわ町議会だより」は、これまでコンクールで奨励賞が多かったのですが、昨年には第2位に躍進しました。

誌面は全編フルカラーで非常に見やすく、また、表紙写真は説得力があり、紙面の力を感じます。

印刷費もカラー刷りの割には安価で、近隣に印刷業者が多くあるため競合できるとのことでした。

④かわさき議会の情報
川崎町の議会広報は、名称を「議会の情報」とする珍しい誌名です。コンクールでは昨年「奨励賞」初受賞となり、今後の躍進が期待されます。編集委員会は発刊まで5回開催し、試行錯誤の中で一生懸命に取り組んでいるようでした。見出しの付け方や動き

のあるものの撮影方法に苦慮しながらも、誌面文章はしっかりとしており、大変優秀な広報であると思います。

まとめ
いずれの町でも、「議会広報を発行することは議会の使命」と言わねばか

りの姿勢で取り組んでおり、それが全国コンクールでの結果に結びついていっているのではないかと感じました。

今後、この調査で得た知識を整理しながら、参考になる点を吸収し、議会広報の向上を図ってまいります。



いずれも優秀な議会広報誌

2町が視察に

8月に中能登町と川北町議会が、「志賀町議会だより」について視察に來られました。

富澤議長と南政夫副議長のあいさつに続き、議会広報特別委員会の福田委員長と南正紀副委員長が説明にあたりました。

両町とも本町の議会だよりを先進事例ととらえて訪問したもので、編集方法や写真撮影など、熱心に聞き入っておられました。



中能登町議会広報特別委員会を迎えて

富来ロータリークラブ

地域活性化の一助に

社会奉仕や国際親善等を通じて地域に貢献することを目的に活動を行っている富来ロータリークラブにお邪魔しました。



会長 岡本 有友さん

◆発足の経緯は。

◇昭和45年、旧富来町の有志25人が集い、スポンサークラブの七尾ロータリークラブのご指導のもと、同年9月に国際ロータリーの承認をいただき、正式に発足しました。

◆メンバー構成は。

◇富来地域内に事業所又は住居がある適格者で、企業代表、団体代表、個人事業主、専門職務従事者などで構成され、現会員は15名です。

◆普段はどのような活動をしていますか。

◇毎週水曜日に湖月館（富来地頭町）で通常例会を行っています。事業は、奉仕プロジェクトに基づき、地域・社会・国際等の奉仕活動を行っています。

◆これまでの活動など。

◇主なものとしては、富来中学校1年生を対象に年4回開催する「少年塾」の開講、保育園児や少年塾生と企業・団体がともに行う「とき金時芋の収穫祭」の開催、また、収穫した芋の一部は福島県郡山市の保育園や施設に送っています。その他、小・中学校のクラブ活動支援、地域活動支援、ロータリー米山奨学生を受け入れなどを行っています。

◆今後の計画や目標など。

◇会員の会費のみで運営を行っているため、多くの事業はできませんが、地域とのかかわりを大切にしたいと思います。また、少年塾の開講や保育園、小・中学校等の活動支援は引き続き行い、各活動を通じて少しでも地域活性化の一助となり、そして、富来ロータリークラブを知っていただければと思います。

◆最後に一言。

◇世界的ネットワークを持つロータリークラブです。富来ロータリークラブでは、地域を大切に、社会貢献とともに自己研さんをする場と考えており、町・地域活性化の一助を担う活動を続けてまいります。



中学生に講話する元米山奨学生の長根尾和子さん



議会広報特別委員会

発行責任者	富澤 軒康
議長	富澤 軒康
委員長	福田 晃悦
副委員長	南 正紀
委員	稲岡健太郎
	寺井 強
	下池外巳造
	須磨 隆正